

Rapport（ラポール）とは、仏語で「信頼と親愛の絆」を表しています。  
多摩大学広報紙「Rapport」は、多摩大学と多摩大学サポーターをつなぐ  
コミュニケーション紙です。

発行者 多摩大学 発行日 2012年10月31日  
東京都多摩市聖ヶ丘4-1-1 TEL:042-337-1111 FAX:042-337-7101  
<http://www.tama.ac.jp/>

2012  
Number  
079

TAMA UNIVERSITY

# Rapport

## Contents

多摩大学のグローバル戦略	P.02
「多摩大学のグローバルビジネス人材育成戦略」	
.....	
「SRC2012 夏」発表一覧	P.03
.....	
現代の志塾 多摩大学 経営情報学部 ホームゼミの紹介	P.04
.....	
オープンキャンパス／学園祭	P.05
.....	
キャリアサポート〈インターンシップ〉	P.06
.....	
教員メッセージ	P.07
中国視察報告	
.....	
写真で見る多摩大学の歴史②	P.08



### 2012年9月 アジアダイナミズム研修

〈台湾視察〉  
新竹サイエンスパーク訪問(写真左上)  
スタッフと記念撮影  
台湾三井物産訪問(写真左下)  
社員と記念撮影  
〈韓国視察 留学フェア(ソウル)〉  
韓国留学フェアに参加(写真右上)  
来場者との面談  
参加教職員(写真右下)



# 多摩大学のグローバル戦略



経営情報学部 金 美徳 教授

## プロフィール

金 美徳 (キムミドク)

多摩大学 経営情報学部および大学院経営情報学研究科 教授。

1962年兵庫県生まれ。早稲田大学大学院国際経営学修士・国際関係学博士課程修了。

(株)三井物産戦略研究所を経て、現職。専門は、韓国企業、朝鮮半島、アジア経済。多摩大学 経営情報学部国際交流委員長、岡山大学キャンパスアジア事業推進メンバー、寺島文庫塾北東アジア研究会代表幹事などを通じてグローバル人材の育成やネットワーク化に取り組んでいる。近著は、「なぜ韓国企業は世界で勝てるのかー新興国ビジネス最前線ー」(PHP新書)など。

## 多摩大学のグローバルビジネス人材育成戦略

多摩大学のグローバルビジネス人材育成戦略は、寺島実郎学長が標榜されている「アジア・ユーラシアダイナミズム時代を創造する志と地政学的知を身に付けた人材の育成」である。

21世紀は、まさしくアジア・ユーラシアダイナミズムの時代である。アジアの地理概念は、ユーラシア大陸のヨーロッパ以外の地域であり、ユーラシア大陸の面積の約80% (4457万km<sup>2</sup>) をアジアが占め、人口は世界人口の約60% (40億人) がアジアに住んでいる。国数は、広義では48カ国で北アジア(1カ国)、中央アジア(5カ国)、西アジア(18カ国)、南アジア(8カ国)、東アジア(5カ国)、東南アジア(11カ国)に地域分類される。狭義では、24カ国(東・東南・南アジア)である。

アジア経済は、巨大な市場規模や豊富な天然資源など潜在性が高いことから、世界経済を牽引することは間違いない。アジア開発銀行(ADB)のシナリオによると、アジアGDPが世界に占める割合は、現在の27%から2050年には52%になると予測されている。2010年アジアGDP17兆ドルが、2050年にはアジアGDPが174兆ドルに膨らむと試算している。

また、アジアの域内経済連携が拡大するのみならず、欧米諸国のアジアシフトによりアジアの域外経済連携も強まる。まさしくアジア経済=世界経済の時代となる。

しかしながらアジアには、安全保障(領土問題・歴史認識・ナショナリズム・テロ・人権)、経済発展(サステナビリティ)、環境・エネルギー(地球温暖化・大気汚染・省エネ)、社会文化(貧困・感染症・保健・教育・アイデンティティ)などの多くの問題が横たわっている。このようにアジアは、経済連携が拡大する反面、国際関係が緊張するという大きな政経矛盾を抱えながらも、新たな経済発展段階を迎えようとしている。



2012年9月台湾視察にて訪問した台湾三井物産。グローバル人材像についてレクチャーを受けた。

したがって日本企業は、アジア市場に進出するか、アジアのヒト・モノ・カネ・情報を取り込まずにして、生き残れないということは言うまでもない。極言すれば「ビジネス=アジア」、「人生=アジア」という価値観の大転換を余儀なくされている。

もうすでに日本の製造業やサービス業のみならず、地方自治体も、アジア市場での販売・生産拠点の開拓や、アジア観光客やアジア企業の誘致に躍起になっている。

それでは、アジア・ユーラシアダイナミズムと向き合うグローバルビジネス人材には、どのような知識や能力が必要なのか。まずは、アジア発の情報の収集・分析・発信力、アジア戦略策定力、アジアビジネスモデル、アジア観、アジア近現代史などである。次にこれらの情報・知識・スキル・観点を繋ぎ合せ体系化することによってアジアマインドやアジアセンスを磨くべきだ。そして最後は、アジアの企業やビジネスパーソンがもっている「アジアの知恵」を引き出し、これを日本の企業やビジネスパーソンがもっている「日本の知恵」と結びつける、もしくは融合させる地政学的知恵が求められる。このような知識・能力・感性・知恵の習得や実践は、決して簡単なことではないが、これこそが今、産業界や大学教育に求められている。

本学では、このような産業社会のニーズや教育政策の要請に基づいて、グローバルビジネス人材の育成に取り組んでいる。具体的には、グローバルビジネス履修モデル(系統科目)の充実、外国語教育(英語・中国語・韓国語の資格取得)の強化、留学(短期・中期・長期)や海外インターンシップの拡大、海外大学間交流協定(留学派遣先)の拡大、受け入れ留学生との交流活性化などである。アジア・ユーラシアダイナミズムと向き合うグローバルビジネス人材育成では、一歩リードすべく臨んでいる。



2012年9月台湾視察にて訪問した中華大学(新竹市)。台湾のシリコンバレーと呼ばれているサイエンスパークと隣接し、産学連携やインターンシップが活発である。

多摩大学では学生による研究発表会が年2回開かれています。SRC (Student Research Conference)と呼ばれ、発表論文をめぐり学生や教員からの質問が飛んできます。経営情報学部が扱うテーマの一端を垣間見ることができます。

開催日：2012年7月14日

発 表		
小沼 俊	航空業界の現状と展望	金ゼミ
鈴木拳太郎	多摩大学事務局（キャリア支援課）の問題発見と課題解決策の提案	酒井ゼミ EX 合同ゼミ C 班
吉田 敏子	中国と日本からみた化粧品業界の課題とこれからの展望	金ゼミ
村杉 契祐	日本文化産業のグローバル戦略	金ゼミ
加藤 駿介	マレーシア・インドネシア・シンガポール間の2カ国経済連携	金ゼミ
ADAM Zouhir	Food Sensei : an application of ingredients recognition of Japanese food products	Idehara Seminar
堀川 真紀	多摩大学事務局（教務課）の問題発見と課題解決策の提案	酒井ゼミ EX 合同ゼミ F 班
伊東 佑馬	日本の出版業界によるアジア戦略	金ゼミ
平林 佑太	海外で日本のゲームを売るには	諸橋ゼミ
山根 和大	フィンランドの教育から学び、日本の教育を見直す	今泉ゼミ
雨宮 康記	BRICs～ブラジル航空市場～	今泉ゼミ
相馬 永吉	笑いの本質について	諸橋ゼミ
森谷 涼介	新聞一面の比較	今泉ゼミ
鈴木 天生	B-1 グランプリ 2012 予測	今泉ゼミ
佐藤 栄秀	一ヶ月一万円生活	今泉ゼミ
窪田 隼人	カフェの経営	今泉ゼミ
金高 桃子	多摩大学事務局（入試課）の問題発見と課題解決策の提案	酒井ゼミ EX 合同ゼミ A 班
豊田 明広	多摩大学事務局（学生課）の問題発見と課題解決策の提案	酒井ゼミ EX 合同ゼミ E 班
杉本 俊樹	子育て支援タクシー ラジオ CM・キャッチコピー制作	中村その子ゼミ
土方 亜紀	Our New Flavor for 2012	Engilish Expression I
渋谷 咲子	ファーストフード業界の分析	山原ゼミ
川上 健治	Our new flavor for 2012	English Expressional I
佐藤 麻美	ファーストフード業界の比較	山原ゼミ
大町 大	有名人の顔分析	大森拓哉ゼミ
苦米地康太	囚人のジレンマ	大森拓哉 EX 合同ゼミ
高杉 謙	マイクロマウスの大会に勝つための戦術	諸橋ゼミ
椎野 英香	物語の人作成知能	諸橋ゼミ
山本 洋和	楽曲の流行と時代背景の関係性	諸橋ゼミ
田島 学	yahoo 検索ランキングで見た振る舞い分析	諸橋ゼミ
杉浦 綾	ArduinoLED cube 作成	中村有一ゼミ
鈴木 美穂	多摩大学事務局（MSS）の問題発見と課題解決策の提案	酒井ゼミ EX 合同ゼミ D 班
梅田 裕介	多摩大学事務局（LSS）の問題発見と課題解決策の提案	酒井ゼミ EX 合同ゼミ B 班
田中 晓丈	自動車台数を通じて各都道府県での生活環境などいろいろな変化を読み取る	今泉ゼミ
小林 佑輔	映画館の未来	今泉ゼミ

展 示		
山口 翔大	卒論研究計画「音楽に対する消費意識」	酒井ゼミ
苅籠 肇	卒論研究計画 「対人行動における多面性の要因に関する研究～友人関係と恋愛関係での行動表出の違い～」	酒井ゼミ
熊谷 孝之	食の教育による食べ物の好き嫌いに対しての考え方	酒井ゼミ
中川 貴裕	卒論研究計画「聖地巡礼による地域活性化」	酒井ゼミ
井関晋太郎	卒論研究計画 「様々な場面におけるコミュニケーションについての考察～状況・関係性・個人による違い～」	酒井ゼミ
伊左次謙彰	卒論研究計画 「大学生の思考は何によって影響を受けるのかー自我同一性との関連ー」	酒井ゼミ
松崎 達也	卒論研究計画 「幸福とは何か～ブータンに学ぶ、日本の国民総幸福～」	酒井ゼミ
武藤 愛	卒論研究計画 「現代の人々に必要とされる居酒屋とは何か」	酒井ゼミ
千葉 光樹	卒論計画 「大学生活がもたらす将来へのモチベーション」	酒井ゼミ
大久保博史	卒論研究計画「ファッショント性格の関連性」	酒井ゼミ
橋田 彩加	ファッショントに対する意識と着装動向	酒井ゼミ
池野彩恵子	卒論研究計画「化粧がもたらす心理的効果」	酒井ゼミ
島村 幸野	この今までいいんでしょうか	大森拓哉ゼミ
林 勇司	思春期における家族との親密度が及ぼす大学生活への影響	大森拓哉ゼミ
小芝 朋史	居酒屋の経営サービスについて	大森拓哉ゼミ
大槻 力丸	大学のイメージ調査	大森映子ゼミ
野口 祥一	社会的影響を用いた今の若者の意識調査	大森拓哉ゼミ
山井 淳也	国旗のイメージ調査	大森拓哉ゼミ
土井 潤太	勉強しなくていいの？	大森拓哉ゼミ
溝口 拓	大学生の結婚に対する意識調査	大森拓哉ゼミ
白木 郷詞	学生とビール	大森映子ゼミ
瀬上賢一郎	DO you know ZEIKINN ?	大森拓哉ゼミ
岸 裕也	宣言じゃんけん必勝法を探る	諸橋ゼミ
石川 寛	『携帯電話と異性関係の関連性』	大森拓哉ゼミ
八木 健介	色彩心理 「シャツの色で相手に与える印象は変化するのか」	大森拓哉ゼミ
山口 大鵬	居酒屋の売上と気候の関係	諸橋ゼミ
藤岡 洋平	ペットは人を癒すのか	諸橋ゼミ
成澤 啓登	TVとインターネットどちらが必要？	大森拓哉ゼミ
藤原 大輝	曲の好み表現から見た価値ボートフォリオ	諸橋ゼミ
武藤 瑞紀	本当は危ないSNS	大森拓哉ゼミ
角田 聖也	グループアイドルの人気と選択の基準	大森拓哉ゼミ



## 巴 特尔（バートル）ゼミ



### プロフィール

巴 特尔（バートル）

経営情報学部准教授。

中国・内モンゴル自治区生まれ。1995年來日。

東京大学大学院総合文化研究科地域文化研究専攻修士課程修了、同博士課程単位取得満期退学（学術博士）。

（株）三井物産戦略研究所研究員を経て、現職。

## 中国・大中華圏の今をつかむ！

時代は今、「知」が重要視される知識情報社会となっており、膨大な情報の中から必要な情報を抽出して分析し、未来を洞察していくことが求められています。

本ゼミでは、こうした時代のニーズに応えられる人材の育成を最大の目的とし、ゼミ生を中心に次のような取り組みをしています。

①中国・大中華圏に関する時事問題の中からトピックスを選び、それと関連する情報等の収集と分析を加え、プレゼンテーションを行います。更に、ゼミ生全員がプレゼンの内容を巡って議論を行い、問題の所在やその本質、並びに問題解決の方法論を探ります。

②中国・大中華圏の「政治経済概況」（一覧表）を定期的に更新し、最新動向の把握に努めます。

③フィールドワーク調査と人的ネットワークの形成に努めています。具体的には、学内のSRCを始め、学外の各種研究会（海外視察も含む）に積極的に参加し、外国人やビジネス・パーソンとの交流を通じて、視野を広げると共に人的ネットワークを広げる努力をします。

上述の取り組みを通じて、ゼミ生の主体性、コミュニケーション能力、協調性、異文化に対する興味・関心・適応力、多角的・複合的な手法でグローバルな問題に挑戦する能力の育成と向上に注力しています。

## 増田 浩通 ゼミ



### プロフィール

増田 浩通（マスダ ヒロユキ）

経営情報学部准教授。

武蔵工業大学卒。東京工業大学大学院価値システム専攻博士後期課程修了。

博士（工学）。東京理科大学嘱託助手、東京工業大学研究員・非常勤講師、千葉工業大学プロジェクトマネジメント学科助教を経て現職。

## システム思考と社会シミュレーション

増田ゼミは2012年4月にできたばかりの多摩大学で最も若いゼミです。まだ2年生の学生のみです。

増田ゼミでは、経営情報システム、経営科学、複雑系などをベースに、マネジメントの方法論や意思決定の教育及び研究を行います。またプログラミングや社会シミュレーションによるデータ解析を通して、物事を筋道立てて考える論理的思考、あるいは物事の深層での因果関係を明らかにしようとするシステム思考ができる人材を育てたいと考えています。現在は、卒業論文作成や就職活動に向けての基礎固めをしています。春学期のゼミでは、西成活裕著「渋滞学」の輪読とパワーポイントによる発表練習を行いました。現在はバーバラ・ミント著の「考える技術・書く技術」を用いながら、正しく文章を書く技術の習得の練習をしています。今後はマルチエージェントシミュレーションというシステム思考を養成するプログラミングの経験をする予定です。

## 望月 照彦ゼミ 同窓会 Hope Moon Academy

### プレゼン大会なども開催、卒業生と現役生が活発に交流

望月ゼミ同窓会「Hope Moon Academy (HMA)」（代表白倉正子さん・4期生）は、望月照彦教授のゼミ卒業生と現役生、大学院生、プレゼン発表に参加された審査員・企業・行政・自治体関係者など総勢421名からなる大所帯の同窓会です。年間を通して会員総会・同窓会の他にもプレゼン大会やクリスマス会などの活動が活発に行われています。

6月23日（土）13:00～18:00には、「望月ゼミ同窓会・Hope Moon Academy 総会」が開催されました。第1部「須賀川プロジェクトプレゼン大会」では、現役2・3年生、大学院生の3チームがプレゼンテーションで競い、望月教授がモデルプレゼンを行いました。第2部の総会では活動報告など、第3部では現役生、卒業生、大学院生などによるトークセッション

が行われ、第4部のエンディングでは来春に向けた出版やイベントの予定が発表されました。望月教授は感想とともに「ゼミは永遠に続くと思います」と語りました。



望月教授（前列中央）と同窓会会員たちが記念撮影

## ● オープンキャンパス

# 模擬授業

オープンキャンパスでは学部・入試説明会、模擬面接、在学生によるキャンパスライフや施設の紹介・交流会、教員による模擬授業などが行われます。高校生は模擬授業で、ユニークな科目や少人数のゼミ形式の授業など、実際に大学で行われる授業を体験できます。

### 大森 拓哉 教授

「経営に生かす心理情報学」 2012/6/24 (日)

### 松本 祐一 准教授

集客施設のマーケティング

「～サンリオピューロランドの問題解決イベントの企画・運営を考える～」 2012/7/22 (日)

### 清松 敏雄 准教授

「ビジネスゲームで利益の計算を知る」

2012/7/22 (日)

「値引きをすれば必ず儲かる？」 2012/9/9 (日)

### 広瀬 一郎 教授

「サッカー岡田ジャパンを見る“問題解決”的方法」

2012/8/12 (日)

### 杉田 文章 教授

「スポーツの魅力再入門」

2012/8/12 (日)

### 豊田 裕貴 教授

「企画する力をつける(1)～手段目的連鎖モデルから考えるアイディア企画入門～」 2012/9/9 (日)



## ● 多摩キャンパス学園祭

# 第 24 回 ひばりさい 雲雀祭

9月22日(土)・23日(日) 多摩キャンパスにて「第24回雲雀祭」が開催されました。今年のテーマは「地域のお祭り」。地域の方々と多摩大学の学生、皆が楽しめるお祭りにしたいという思いが込められました。屋外にはゼミやサークルによる模擬店、縁日が並び、アリーナの特設ステージではヒーローショーや声優トークショー、ダンス、音楽ライブなどが行われました。校内ではお茶席、作品展示、サッカーシネマフェスティバルなども開催、地域の方々も家族で参加して楽しんでいました。また23日にはオープンキャンパスも同時開催、高校生が大学の雰囲気を知る機会になりました。

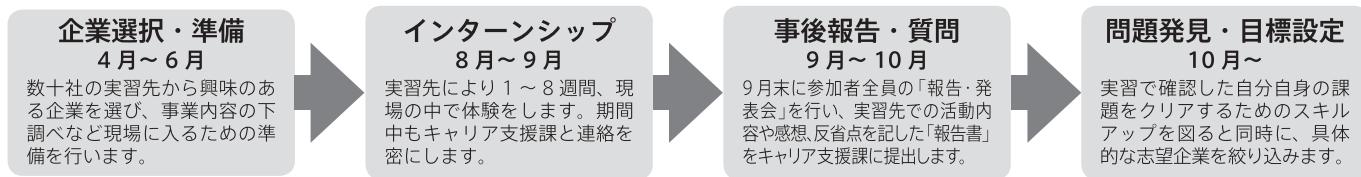


## インターンシップ<sup>°</sup>

インターンシップとは、学生が一定期間、企業などで就業体験するプログラムです。

多摩大学では各業界、地方公共団体など幅広く受け入れ先を確保しており、学生は2年次、あるいは3年次の夏休みなどをを利用して、ビジネスの現場を体験することができます。自分自身の課題を発見しスキルアップを図るとともに、具体的な志望企業や職種を絞り込んでいくなど、就職活動に活かされる貴重な体験となります。

### 【インターンシップの流れ】



### 2012年度 インターンシップ提携企業

(株) NKS 能力開発センター	龍皇	(株) ポピングス	住友商事マシニックス（株）
(株) アドバンストラフィックシステムズ	(株) 東計電算	(株)マイクロリサーチ	大同興業（株）
(株) オーティーエス	(株) ビジョンサービス	(株) レイ・クリエーション	多摩市役所
(株) 小田急エージェンシー	(株) フォーバル	(株) 小田急リゾーツ	多摩大学情報社会学研究所
(株) オンザウェイ	(株) フォーラムエイト	NSユナイテッドシステム（株）	ディップ（株）
(株) 共立メンテナンス	(株) 松尾商行	RAUL（株）	東海東京証券（株）
(株) グリーンベル・リハビリ	(株) 横浜フリエスポーツクラブ	アユダンテ（株）	東進衛星予備校
デイサービス「笑う門」	(株) ライセンスアカデミー・	(一社) 日本ワーキングホリデー協会	日本通運（株）
(株) 三光マーケティングフーズ	大学新聞社	稻城市役所	日本ビューホテル（株）
(株) シーボン	(株) レアレッグ	川崎市男女共同参画センター指定管理者・TEPCOバブリック	廣瀬国際特許事務所
(株) セキュリティハウス西東京	(株) Olympic	サービス（代表・キャリアライズ）	フジマニバブリッシング（株）
(株) 多摩テレビ	(株) アドックインターナショナル	(公財) 神奈川産業振興センター	ホテル グリーンプラザチェーン
(株) ディスコ	(株) サン・フレア	佐藤農園	町田市役所
(株) ナイスク	(株) ニッポンダイナミックスシステムズ	(社) 科学技術と経済の会	万田商事・オリオン書房立川ノル
(株) ハチオウ	（株）	スカイビルサービス（株）	テ店
(株) 八王子エルシィ・レストラン	ペル・インフォ・テック	スフィーダ（株）	リコージャパン（株）
			リゾートトラスト（株）

### 卒業生・在学生懇談会 先輩から学ぶ「働く」ということ

7月7日（土）13時～16時に多摩キャンパス001教室にて、杉田文章教授の授業「ビジネス入門」の中で「卒業生と在学生の懇談会」が行われました。「社会で活躍している卒業生から仕事の体験談を聞くことで、在学生が仕事や人生について考える機会を設けたい」との趣旨で、卒業生22名を招いて開催されました。前半の「働くということ」「生きるということ」をテーマとしたパネルディスカッションでは、3名の卒業生がそれぞれ「人生と天職」「仕事を通じた『成長』」「生きがいと仕事…仕事に生きがいや志はあり得るか？」のタイトルで、自身の仕事や大学時代の体験談、就職活動などについて語りました。また後半では、参加した卒業生1人1人が仕事の体験談や在学生へのアドバイスなどを織り交ぜた自己紹介が行われ、質疑応答が熱く繰り広げられました。



仕事をテーマに語る先輩の話に聞き入る在学生たち



自分の仕事を紹介し、在学生へメッセージを送る先輩たち

### 2012年度 経営情報学部 父母「就職懇談会」開催

9月30日（日）13：00～3・4年次生のご父母を対象に2012年度の父母懇談会が開催されました。多摩大学では、近年の厳しい就職状況のなか、寺島学長をはじめ教職員全員による、学生の「人間力」育成をもとにしたキャリア教育・就職支援に取り組んでおります。就職活動中の4年生、これから就職活動を開始する3年生を大学・家庭が連携して学生を支援することが重要と考え、会を開催しています。

当日は、今井ひろみ後援会副会長のご挨拶に続き、久恒啓一学部長から経営情報学部の教育理念と教育プログラムが説明され、杉田文章就職委員長と池田剛透学務部長より就職の現状と今後の取り組み、就職サポートの状況が具体的に説明されました。全体説明後は会場を移しじめ別の面談を行い、台風17号が迫り時間を追うごとに雨風が強まる中での開催にも関わらず、出席された124名のご父母の方々は、ゼミ担当教員との面談に真剣に臨まれていました。学生本人・大学・家庭の連携により就職活動を支援する本学ならではの充実した会となりました。



ゼミ担当教員を囲み熱心に聞き入る父母の皆様

## 教員メッセージ

「こんな社会人になってほしい」期待される社会人とは？教員から学生に伝えます。



経営情報学部 趙 佑鎮 教授

〈プロフィール〉

趙 佑鎮（チョウ ウジン）

韓国出身。韓国延世大学経営学部卒業後、文部省奖学金として日本留学。慶應義塾大学大学院商学研究科前期・後期博士課程修了。(社)韓国人間開発研究院研究員、かながわサイエンスパーク専門研究員、青森公立大学経営経済学部准教授を経て、現職。商学博士（慶應義塾大学）。



経営情報学部 斎藤 S. 裕美 准教授

〈プロフィール〉

斎藤 S. 裕美（サイトウ ヒロミ）

東京学芸大学教育学研究科修士課程修了  
専門は情報教育、情報倫理

### 「常に時代の潮流を感じるグローバル人材」

世の中で大変難しいことのひとつが経営である。経営は、感情のある人間を動かし「変化」という作品をつくり出す創造行為だからである。21世紀の複雑な「変化」の背景を理解し、その中から「価値」を生み出すためのキーワードは、「マージナル」、「グローカル」、「複眼的見方」であろう。このキーワードを絶えず意識しながら、「経営」に関連する「政治」・「経済」・「社会」等を鳥瞰し、「経営」に対して「歴史」・「文化」・「芸術」等の人文教養を融合していく人材こそ、21世紀をイノベーションする人材である。そして、現代社会では異なる文化圏から来た人、または自分と異なる人を相手にする能力が成功の重要な要素になっている。本学での学びの多くが、上記のことにつながるものであり、学生諸君は、多様な価値観を理解し、コミュニケーションができる自立した個人として、あらゆる分野で活躍することを期待している。

### 「昨日の我に飽くべし」

若者の離職率を「七五三現象」と呼んだのももう八年ほど前になるが、思ったような仕事ができないということで辞めてしまう若者も多いと聞く。しかし、自分が思ってもみない分野に意外な才があったり、苦手な分野でこそ丁寧に仕事ができるということもある。自分で自分の限界を決めてしまわずに、経験できることは臆することなく経験してみてほしい。その経験が十年先、二十年先に活きることもある。そして毎日少しづつでいいから、新しい何かを知ったり身につけたりして成長できるような人であってほしい。教員として一番気がかりなのは、送り出した学生たちが社会の一員として活躍しているかどうかということである。技術だけでなく、人々の考え方や生き方も刻々と変わっていく時代のなかで、社会にとって必要な人間であり続けることはとても難しいことだと思うが、経験を重ね、日々成長していく社会人になって欲しいと思う。

## 中国視察報告

日 時：2012年8月5日（日）～10日（金）

場 所：新疆ウイグル自治区、天津、北京

参加者：田村嘉浩常務理事、矢内彰事務局次長、金美德国際交流委員長、バートル国際交流委員、井川裕人国際交流委員

目 的：中国協定校及び大学教育事情の視察を通じ、今後のグローバルビジネス人材育成の方向性を探り、国際交流活動の活性化を図ること。

視察結果：本視察は、天津財経大学や新疆財経大学などの協定校を訪問し、両校のこれまでの交換留学生事業の実績を確認した。これらの実績をもとに今後、両校の留学事業のみならず、教育研究活動も拡大強化を図ることで合意した。

また、他の中国の教育機関や研究機関とグローバル教育や大学教育事情について情報交換を図るとともに、連携の機会を探った。本視察の結果をもとに、本学のグローバルビジネス人材育成の一定の方向性を導き出し、国際交流活動を活性化する対策を講じた。

### 新疆財経大学（2009年協定校締結）

本学より初めて表敬訪問し、これまでの交換留学事業の実績（本学受け入れ19名、送り出しが無し）を確認した。また、今後本学よりの留学生送り出しを含めた交換留学事業の活性化や教員間の学術交流を図ることで合意した。

Ai Guanghui副学長をはじめとする国際交流担当の教職員5名と会議を行った。同校は、広大な敷地に近代的な施設が数多くそびえている。また、留学生専用の施設も完備されている。



新疆財経大学訪問



### 天津財経大学（2004年協定校締結）

同校を9年ぶりに表敬訪問し、これまでの交換留学事業の実績（本学受け入れ67名、送り出し22名）を確認した。また、今後、交換留学事業の活性化や教員間の学術交流を図ることで合意した。

Li Honggui国際交流担当長をはじめ国際交流担当の教職員3名と会議を行った。教育施設は、近代的かつ洗練されている。特に留学生施設は、新たな施設の完成を控えており、留学生事業への注力ぶりが伺える。日本語学部は、学生が240名おり、卒業生は天津地区の日系企業に就職している。



天津財経大学訪問



みなさん、ご存じでしたか？シラバスを日本ではじめて発行したのが多摩大学であったことを。それまでの大学では、時間割とちょっとした科目説明だけが期初に配布されただけでした。それを多摩大では、「学生との約束」という意味も込めて全15回の講義内容や評価基準をハンドブック化しました。多摩大は日本の大学史における1ページを拓いたのです。

## 他大学に先駆けて次々と先進的な教育改革を実践

国内の大学で初めてシラバスを作成したのが、多摩大学でした。

### 「シラバス」



平成3年度当時のシラバス（履修要項）

### 「退学勧告」



読売新聞（多摩版）1990年4月20日に掲載された退学勧告記事

多摩大学が平成元年に開学した時から、シラバスの公開を行いました。

最初シラバスの記入では、概要A4 1ページ、詳細について15回の講義1回（講）毎に400字程度の記入を依頼されました。現在では当たり前となっていますが、当時は「えっ！」と思いました。

シラバスは学修のための学生との一種の契約であるから、自分の商品をきちんと説明することが重要であると説明を頂き、自分で学修目標の提示や15回（講）での商品の仕様について記述しました。

15回（講）の仕様を決めるのには大変苦労しました。特に、1科目ではなく、担当予定科目全てであったので、従来のものを整理・整頓して1ヶ月程要しましたが、記入しながら、高等教育サービス商品を創り、行うものとしての目標が明確になったのを憶えています。 （経営情報学部 今泉 忠 教授）

私が教員として初めて大学教育に関わったのは2004年のことでしたが、すでにどの大学でもシラバスがあることは当たり前でした。多摩大学に着任後、ここで初めて導入されたものだと聞いて驚いたのを覚えています。最終的に学生に提供したい目標値にむかって、どのようにそのプロセスを組み立てればよいのか。それを考え抜く作業は、教える立場の者にとってとても大切なものだと思います。

シラバスは「学生との契約」であると表現されることがあります。教員にとっては守るべき「自分との約束」でもありますが、ただシラバスどおりに授業をすればよいというものでもないと思っています。授業は、その時その時の学生と教員のやりとりの中で変化していく（すべき）生き物のようなものです。目標値はそうそう変えません。でもプロセスや部品は、どんどん変わっていると思っています。

きっと学生達が思っているよりずっと、教員は一つ一つのシラバスに深い想いをこめています。ぜひそれを感じながらシラバスを読み、一緒に授業を作っていくってほしいと思います。 （経営情報学部 酒井麻衣子 准教授）

開学時、入学した1年目に「退学勧告」が行われました。これは、「学生にとって、大学で学ぶことは重要なことであるが、他の道を選択することより重要なことではない。多摩大学にできることは高等教育サービスであるので、学生に他の選択をも示す」ことであったと思います。

履修単位数に応じた退学制度などを整備している大学もあったかと思いますが、「退学勧告」を受けた学生でも、継続して学びたいと申し出た学生には、学長自ら、さまざまな学修に関する相談（履修相談以外にも、大学で学ぶ意義など）に乗っていました。このように明確にする所は、皆に明示していますが、自律したい学生には、そのままにせずに、他の様々なサポートを行うという多摩大学の文化の始めてあったと思います。

（経営情報学部 今泉 忠 教授）